

## 産業用無人ヘリコプター飛行技術競技会の報告（県大会・全国大会）

### 1 新潟県大会

新潟県産業用無人航空機推進協議会（会長：佐々木豊）主催による令和7年度産業用無人ヘリコプター飛行技術競技会が令和7年10月14日（火）に新潟県の後援を得て、県農業大学校（新潟市西蒲区）の実習ほ場において開催されました。

当協議会は、平成7年に設立され、設立時から毎年、産業用無人ヘリによる防除作業の確実な実施と作業事故ゼロに向け、オペレーターの飛行技術向上と相互の交流・連携を図るため、毎年、飛行技術競技会を開催しています。

この大会は全国大会の県予選も兼ねており、指導員クラスのベテランから認定証を取得したばかりの若いオペレーターと多彩な顔ぶれの選手が、今年は県内各地から18組、26名の精鋭が参加しました。

当日は、時より小雨が降る不安な天候でしたが、飛行等に影響を与える風は微風の条件下の中、全国大会の審査基準や競技方法に準じ、各選手の熱演が繰り広げられました。

審査の結果、最優秀賞1組、優秀賞2組、努力賞3組を入賞とし、最優秀賞（1位）の今井哲成・山崎大地ペア（NOSA新潟支所）、優秀賞（2位）の女性オペレーターで佐藤友貴・佐藤英也ペア（ちやざわS・C）が、県推薦として全国大会に出場することになりました。この他、大会運営にご尽力いただいたヤンマーヘリ&アグリ（株）及び新潟スカイテック（株）の推薦による2チームを加え、上位入賞者4チームが全国大会に出場することとなりました。

競技会終了後、佐々木吉春審査委員長（新潟スカイテック）から講評として、オペレーターとナビゲーターとの密接な連携が安全飛行や事故防止につながるなどコメントをいただきました。また、各選手には、後日、審査項目毎の採点結果に加え、審査員からのアドバイスを添えてフィードバックし、今後の自己研鑽の参考にしていただくことにしています。



佐々木会長の開会挨拶



大学校での飛行競技の様子

## 2 全国大会

一般社団法人農林水産航空・農業支援サービス協会(会長：福盛田共義)ら主催による第34回全国産業用無人ヘリコプター飛行技術競技大会が11月6日(木)栃木県宇都宮市運動公園宿緑地において、北は青森から南は鹿児島まで、各県の予選を突破した全国18県61チーム、関係者含め271名が集い開催されました。

開会式では福盛田会長の挨拶に続き、前年度団体戦1位の茨城県から会長杯カップの返還、岩手県代表による選手宣誓、指導教官による模範演技を見ながら競技方法の注意点等の解説がありました。競技は、2コースに分かれ、Aの部(技能認定取得5年未満)、Bの部(技能認定取得5年以上)、対面飛行の部に加え、今大会から設置された女子オペレーター部4部門で農薬に見立てた水を散布し、散布開始・停止、飛行の安定度(高度・左右へのブレ)、飛行速度の正確性等について散布作業技能を競いました。本県チームはAの部門に2チーム、Bの部門に1チーム、女子部門に1チーム計4チーム編成で出場しました。

審査の結果は、団体戦1位は熊本県、本県は5位と入賞(3位まで入賞)まであと一歩のところでしたが、個人戦において今年から設置された女子オペレーター部門で本県代表の佐藤友貴・佐藤英也ペアが見事、優勝を果たすことができました。佐藤ペアの成績は全体の中でも上位に位置する素晴らしい成績でした。佐藤ペアは「全部門のトップに該当する農林水産大臣賞を目指し、更に技術を磨きたい」と来年の大会を見据えています。他の3チームも入賞こそできませんでしたが、安定した飛行で上位に入り、本県の技術レベルを全国に示すことができました。この全国大会、県大会を通じ、さらなる無人ヘリの操作技術の向上を図り、安全運航と作業の効率化、そして作業事故ゼロに結び付くものと確信しています。

(県植物防疫協会 事務局)



佐藤友貴選手による操作演技の様子



女子部門で優勝した  
佐藤友貴・佐藤英也ペア